特別支援教育関連メールニュース

2026 年 10月号(Vol.9,No.1)

日本作業療法士協会 制度対策部 保健福祉課　障害児支援班（教育領域支援推進チーム）

2026 年度 第 1 回「教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会」開催報告

～全国 43 士会が結集！先進事例の共有と地域課題の解決に向けて～

2026 年 7 月 19 日(日)、オンラインにて「2026 年度 第 1 回 教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会」を開催いたしました。全国 43 士会・73 名が参加し、特別支援教育等における作業療法士の参画推進に向け、埼玉・大阪の両士会による取り組みに関する話題提供とグループディスカッションを行いました。

■ 話題提供①：埼玉県作業療法士会

『子ども支援委員会の活動について』 佐々木 竜也 氏

2017 年に発足した「子ども支援委員会」を中心に、人材育成と自治体支援を展開していることが紹介されました。

- **3 段階の体系的研修：**発達障害を専門としていない OT のための研修を初級、発達障害を専門としたい OT のための研修を中級、発達障害を専門としている OT のための研修を上級と位置付け、段階的に臨床力の向上を目指せるよう、研修を体系化しており、初級では、臨床思考過程の言語化と多領域の OT 同士のネットワーク形成が促進されています。
- **地域貢献への展開：**研修で育った人材を活かし、5 歳児健診やインクルーシブ公園イベントなど地域活動へ広げています。

■ 話題提供②：大阪府作業療法士会

『教育領域への作業療法士の参画について』 西口 あずさ 氏

大阪府の「ともに学び、ともに育つ」支援教育方針のもと、行政や学校と連携した仕組みづくりが進められていることが紹介されました。

- **豊中市「1 年生観察助言事業」：**府士会より作業療法士を紹介し、小 1 児童の学校生活への早期適応を目指すため、クラス巡回・環境調整・助言を実施しています。
- **支援学校における教員採用：**2026 年度より実務経験者を対象とした特別免許状による自立活動教諭の採用枠が拡充されました。
- **人材バンク体制の構築：**研修と学校同行訪問（OJT）を終えた人材を登録・マッチングする仕組みを運用しています。

■ ディスカッション＆全体共有：全国の課題と工夫

後半のグループディスカッションでは、事前アンケートに基づく 11 のテーマの中から、「人材育成」「教育委員会との連携」「士会の役割・質の担保」などを中心に深掘りした議論が行われました。

全体共有では、以下のような全国共通の検討課題が浮き彫りになりました。

1. **派遣人材の質の担保と育成体制の構築**
2. **自治体・教育委員会との組織的かつ持続可能な連携モデル**
3. **事業予算の確保および適切な契約形態の推進**

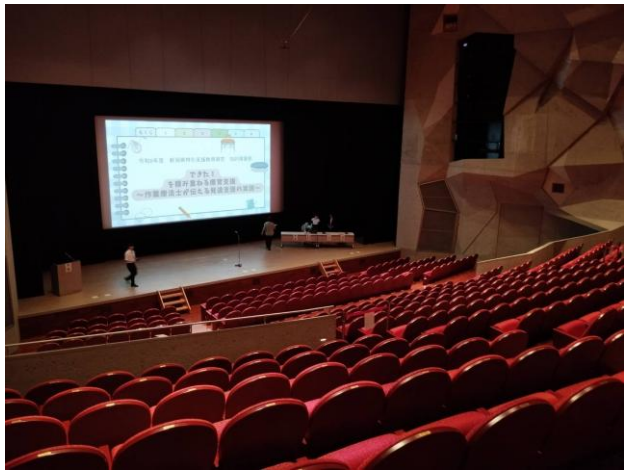
参加者アンケート（64 名回答）では、多くの方から「自県だけでは得られない先進事例や地域差を超えた共通課題を知ることができ、非常に有意義だった」との感想が寄せられました。

2026 年度重点活動「学校教育参画に向けた後方支援」

～3 県での研修会を通じた作業療法の普及と啓発～

学校教育参画促進事業として、「学校教員向け研修会」を開催しました。本年度は、千葉県・新潟県・鳥取県の 3 士会から応募があり、各士会の取り組みを制度対策部委員が支援し、それぞれの地域で研修会を実施しました。

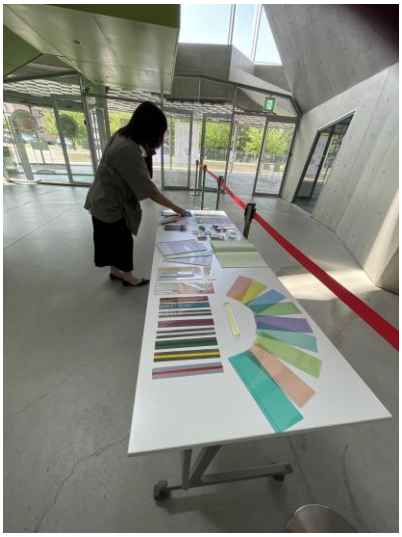
開催状況は、千葉県 7 月 31 日・26 名、新潟県 8 月 3 日・61 名（事後配信 53 名）、鳥取県 8 月 6 日・17 名でした。3 県で、計 104 名の学校教員に参加いただき、事後配信を含めると、延べ 157 名に作業療法士の役割や専門的な視点を伝える機会となりました。





研修では「学習支援」をテーマに、読み・書き、座位姿勢、感覚処理など、作業療法の幅広い視点から子どもたちの行動を捉え、その背景を解釈することの重要性を伝えました。また、会場には実際の支援グッズに触れられる体験ブースを設け、具体的な活用方法を紹介しました。こうした体験型の企画を通じて、参加者から多くの質問が寄せられるとともに、各県士会と各県の学校教員との関係性の構築にもつながりました。





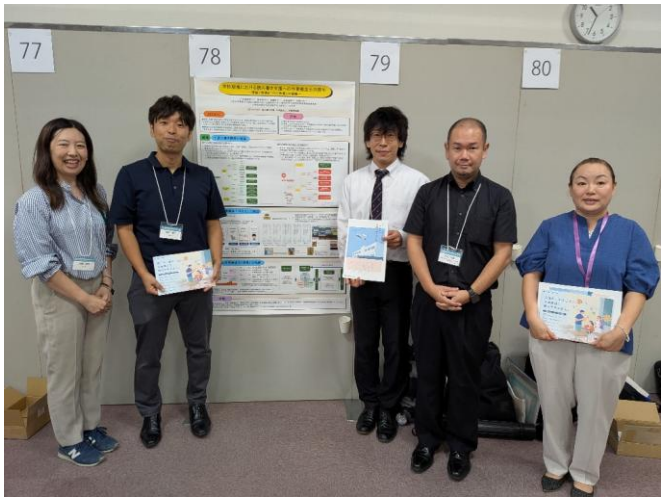
次年度に向けても、各県士会の取り組みを継続的に支援できる体制を整えていきます。学校教育における作業療法の可能性を広げるため、ぜひ積極的にご応募ください。

第 64 回　日本特殊教育学会でのポスター発表報告

～学校現場のニーズから見えた作業療法士への期待と地域連携の成果～

2026 年 9 月 19 日(土)から 21 日(月)にかけて、兵庫県の神戸国際会議場で開催された日本特殊教育学会において、「学校現場における読み書き支援への作業療法士の関与―理論と実践をつなぐ教員との協働―」をテーマにポスター発表を行いました。本学会は、設立から 60 年以上の歴史を持ち、特別支援教育に関する研究・実践の発展を目指して、教育・心理・医療・福祉など多岐にわたる領域の研究者や実践者が集う学会です。

今回の発表では、「読み書き」をテーマに、読み書きの困難さの背景要因や具体的な支援方法、教員との協働について報告したところ、高い関心が寄せられ、短時間にもかかわらず 70 名を超える方々にお越しいただきました。学校の教員からは、読み書き支援における難しさや課題が数多く聞かれ、作業療法士へのニーズの高さを実感しました。特に、「どのようにすれば作業療法士とつながれるのか」という質問が相次ぎ、各都道府県の作業療法士会をご案内しました。



また、学校教員向け研修会など、他の事業を通じて作業療法(士)の存在を知った方々にもお越しいただきました。このことから、各地域における地道な取り組みの積み重ねが、教育現場における作業療法士への理解や認知度の向上につながっていることを改めて実感しました。今後も、学校現場のニーズに応えながら、教員と作業療法士がつながり、協働できる仕組みづくりを進めていくことが重要であると考えています。

今後の予定としては、2026 年 11 月 20 日(金)から 22 日(日)に新潟県の朱鷺メッセで開催されます第 60 回日本作業療法学会にて「多様化する学校作業療法士の関与形態と実践例」というテーマでポスター発表をいたします。学会にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

■ 第 2 回意見交換会を 2 月に予定しています

「学校」という子どもたちの生活の場に作業療法士の専門性をどう生かしていくか。7 月の意見交換会を通じて、全国の士会がそれぞれの地域特性に応じた工夫を重ねながら、着実に歩みを進めている姿が伺えました。協会では、今後も各士会が孤立することなく、ノウハウを共有し合える場づくりを継続していきます。次回の意見交換会は 2027 年 2 月 4 日(木)19 時 30 分から 21 時を予定しています。詳細が決まり次第メールニュース等でご案内いたしますので、会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております！